

# パチンコが身近になるための三提言

目次:

P2◇はじめに

P2◇音

P3◇タバコ

P5◇複雑な仕組みと演出

P6◇まとめ

P7◇おわりに

武蔵大学大学院 経済学研究科 博士前期課程 経済経営ファイナンス専攻 1年  
稲川 寛明

懸賞アイデアエッセイを知ったきっかけ

パチンコ店はミクロ面の地域経済・マクロ面の日本全体の経済にそれぞれ大きな影響をもっていると予想します。具体的には地域金融機関の融資先・人口減に悩む地方に貴重な第三次産業の雇用先として考えられます。また日本全体の経済としては比較的どのような経済環境の下でも、コンスタントに一定の部品・機器の新規需要があることがあげられます。これらを大学院で研究するためのデータ集めをしていたところ、偶然 PCSA のホームページにたどりつき、この懸賞を見つけました。

そして論文についてはまだデータの不足や実証分析に時間がかかるため、今回は私のパチンコ店に対して思うことをエッセイとして提出させていただくことになりました。

## ◇はじめに

パチンコとの出会い、それは両親と出かけた熱海の温泉街にある小さなお店でした。生まれて初めてのパチンコは大抵友人や大学の先輩といった方々で行くのがセオリーのようなのですが、私の初打ちは単身でした。家族全員で熱海のそのお店に入店したものの、もちろん打つのは私のみ。当時一世を風靡した初代の新世紀エヴァンゲリオンの台に座りました。初打ちといえど遊び方は大体想像が付き、お金をサンドに入れ貸し玉ボタンを押せば自動的に遊技開始と相成りました。

ところが世の中面白いもので、しばらくして両親が店を出る際、店内放送で「〇〇番台スタートしました!」という自動放送が流れました。そうです、私が座った台番号が放送されていました。両親が慌てて戻ってきて、大当たりの光景を目の当たりにしていました。典型的なビギナーズラックの思い出になりました。

そんな遊技としてのパチンコですが、元々我が家にはパチンコという文化はありませんでした。でも話を聞いてみると昔は遊んでいたものの、皆止めてしまったことが分かりました。父は若い頃の手打ち式時代以降はやらなくなり、母方の伯父は1990年台中盤でパチンコ店に行くことはなくなったそうです。

父は団塊の世代、伯父はさらに上の世代であり、これから時間に余裕がある世代であることは間違いありません。また父が大学時代に通っていたお店が、なんと40年以上の時を経ても同じ場所に同じ名前で見存しているそうです。しかし父は今のパチンコに興味はあるが戻る気はあまりないとのことでした。このように一度止めた人がパチンコ店に戻るにはいくつかの改善点が必要であることを見つけ、またこの改善点は私が普段から疑問に思っている点と重なったため、今回の提言とさせていただきますことにしました。

## ◇音

パチンコ店の自動ドアが開くと物凄い音の波動が出てきて、ドアが閉まると何事もなかったかのようになります。そして何より、私はお店に入店する際は必ず耳栓をつけて入ります。もちろん年1回の健康診断の聴音検査で正常値ではありますが、その正常値である私が未だに耳栓をつけないとパチンコ店には入れないのです。しかし店舗の従業員の方はおろか、他のお客さんで耳栓をしている人は少なく、ざっと一割程度でしょうか。しかし実際にはパチンコ店で90デシベルもの音が出ている<sup>1</sup>ようであり、この数値は労働安全衛生法<sup>2</sup>により従業員への耳栓などの対策が必要な数値であります。

<sup>1</sup> <http://portal.nifty.com/koneta05/03/14/02/> パチンコ店店内 90 デシベルという調査結果  
<http://www.p-world.co.jp/saitama/maruhan-iruma.htm> マルハン入間店 静穏化への取り組み より 95 デシベル→85 デシベルへの目標

<sup>2</sup>[http://www.ibaraki-sanpo.jp/publicity/material/stakeda\\_souon.html](http://www.ibaraki-sanpo.jp/publicity/material/stakeda_souon.html) 茨城産業保健推進センターより 法律の規定紹介

このような高い騒音とともれる音の中に毎日仕事をしている従業員の方の耳や、お客さんの耳には明らかに難聴の危険性が伴います。以前テレビの健康番組での話であります。耳の内部の奥にせん毛という音を感知する毛が生えているそうです。この毛は手前のほうは高い音を感知し、奥に行くほど低い音を感知できるそうです。しかし騒音にさらされ続けたり、ヘッドフォンステレオを大音量で常時使用していると、若いうちから耳の入り口にある手前側のせん毛が弱ってくるそうです。いちどせん毛が弱ってしまうと聴力が落ち、現代医療を駆使しても一度弱ったせん毛を復活させることは不可能であるそうです。

もう一度パチンコ店に立ち戻ってみると、常にお店に出向く私でも試しに耳栓なしで遊ぼうとしたら5分も持ちませんでした。しかし先述の通り従業員の方は片耳にはインカムのイヤホンをしています。あの店舗内の騒音ではインカムの音量も相当なものと考えられます。さらに一般のお客さんでは耳栓をしている人はあまり見かけません。

これは悪い方向に慣れてしまっている感があります。現にパチンコをしない大学院の友人に私のよく行く店舗である全面禁煙フロアのお店に連れて行ったところ、「なにこれ、うるさ過ぎる」という言葉が開口一番でした。

→ パチンコ・スロットに馴染みがない人＝潜在パチンコ・スロットの新規ユーザーという逆転の発想から考えると、まずお店の騒音問題の改善が新規ユーザーの獲得の一つの要件であると思われます。ちなみに、私の伯父がパチンコを止めた理由の一つが、「年々うるさくなるパチンコ台だから」ということも言っていました。

またお客さんより長時間この騒音にさらされる従業員の身体の保護も、そろそろ考えるべきであります。そう、耳のせん毛が弱ってしまったら難聴は悪化することはあっても改善することは現時点の医療では無いからです。

ただ具体的に対策するとなると、お店・台メーカー・業界団体・規制組織の全てに絡む話になります。

ただしお店の混雑時は労働関連の法律で規制されるレベルの音が出ていることだけは忘れて欲しくないと思い、改善への努力を絶やさないで欲しいと思います。

## ◇タバコ

一昔前はパチンコ店といったらタバコ。さらにもっと昔になると、タバコといえばパチンコ店で景品としてもらうという時代もありました。それぐらいパチンコ店とタバコはつながりの深い関係です。しかし近年の健康増進法の成立や社会全体のタバコ嗜好者の減少により、パチンコ店もこれに合わせていく時代だと思えます。といっても、どこの店を見てもタバコの煙が浮かんでいます。

愛煙家の方としてはパチンコ店は『最後の砦』なのかもしれませんが、私は社会全体の喫煙率に低下にあわせた営業方針、いわゆる完全分煙または禁煙を推進するべきだと思います。

私は幼少期に患った小児喘息のためタバコは吸わない派に属しており、出来れば煙の来ないほうへと逃避しています。しかしパチンコ店では当たり前のように煙が漂っており、一度喫煙の店舗に入店するだけで、頭の髪の毛からズボンにいたるまでタバコの臭いが染み付くため心地よいものではありません。そのため、私のよく行く店舗はフロアが丸ごと禁煙のお店です。しかしこのような店舗は都市部では土地代が高いためか、非常に少ないのが現状です。地方ではダイナムグループが革新的な全面分煙ホールを展開しており、都心部で禁煙店舗探しに一苦勞している私からすれば、うらやましい限りです。

それでは全面禁煙店舗はいつから登場したのでしょうか。私がかたま見つけたのが1991年に放送された『素敵にドキュメント』というテレビ番組のパチンコ最新特集<sup>3</sup>において、長崎県長崎市のまるみつインというお店が、当時日本で唯一全館禁煙というスタイルで営業していることが判明しました。

以下はあくまで私のよく行く都市部の禁煙フロアのある数店舗を見た限りの話です。仕事帰りのお客さんが来る時間帯より前、つまり開店から午後5時までの時間帯では、同じような台が喫煙フロアと禁煙フロアにそれぞれある店舗では、禁煙フロアのほうが客入りが明らかに多いことが分かります。これはタバコを吸う客層や年齢層が開店から昼にかけての時間帯に来店しにくいという特性もあると思いますが、禁煙フロアとはいえそれなりの稼働が見込める証拠だと思います。

また禁煙についてですが、従業員の受動喫煙の問題も近年浮上しています。昨年末、厚生労働省が全ての事業所と工場に全面禁煙か喫煙室以外での喫煙を禁止する「空間分煙」を義務付ける労働安全衛生法の改正案をまとめ、法案成立を目指すという報道がされました。これからは従業員の受動喫煙についても考える必要性があります。

またパチンコ店におけるタバコの動向は、社会のタバコの認識よりも随分乖離があるのかもしれませんが、それを裏付けるかのようにパチンコ店のお客さんの数多くが愛煙家という可能性もあります。ただし、先の音に関する章にも出てきた式、

→ パチンコ・スロットに馴染みがない人＝潜在パチンコ・スロットの新規ユーザー

という部分では馴染みが無い人は社会的にみると喫煙率が低いと予想されます。その人々がパチンコ店に意を決して行こうとしても、たとえ換気が良い店舗でも所詮タバコの臭いというのは吸わない人は敏感に感じ取るものです。そのためタバコの臭いという物が新規ユーザー獲得の障壁になっていると考えられます。パチンコ店に行く私ですらタバコの煙に関しては新規ユーザーと同じ心持ちであります。

そこで都心部では難しいかもしれませんが、一つのモデルケースとしてダイナムグループの信頼の森という営業形態が理想の形態といえます。この信頼の森というのは完全

---

<sup>3</sup> <http://www.youtube.com/watch?v=gAFYGGKpOrJQ&feature=related>  
素敵にドキュメント パチンコ最新特集 長崎県長崎市のパチンコ店全館禁煙

分煙・低貸出コーナー併設・低貸出にはありがたいコンビニみたいな景品品揃え・ということコンセプトにしている店舗であり、パチンコを時間消費型レジャーに戻そうという努力がうかがえます。つまり「パチンコで遊んだらタバコがもらえる」という 1960 年代のイメージの現代改良版と考えられます。

これから社会的に一層タバコが締上げられるのは間違いなく、既存顧客の中にも禁煙を始められる方が出てきた場合、都市部でも禁煙ホールの需要はさらに増すのではないのでしょうか。近年分煙対策でパチンコ店が行なっていることはエアーカーテンや防煙板などを各台に設置しています。しかしこれは副流煙対策には効果ゼロであり、なによりタバコを吸わない方は私を含め、少しでも喫煙のパチンコ店に居ただけで不快感を覚えます。ですから、分煙という言葉を使うのは最低でも 1 つのフロアを全面禁煙にするレベルから本当の分煙と言えるのではないかと思います。

## ◇複雑な仕組みと演出

パチンコは確率の抽選が行なわれており、スロットも同じように抽選の概念があります。さらにパチンコでは単に通常確率から大当たりを引いたとしても、出玉有り通常確率の大当たり・出玉有り確率変動に移行する大当たり・実質出玉なし大当たり(いわゆる突然 or 潜伏確率変動)といった多彩な大当たりがあります。さらにこれらの大当たりの振り分け割合を設計時に思案したり、規則を組み合わせたりして台メーカーは多彩なスペックの台を製造しています。

ですので現代のパチンコは、ただハンドルを握り玉を打ち出し、当たれば玉が出るという時代ではないのです。ここで 1990 年半ばにパチンコを引退した伯父の話が出てきます。伯父は長い間、それもパチンコの初期の頃からのユーザーでありましたが、1990 年半ばにパチンコ店に行かなくなりました。その理由は以下の通りでした。

- ・パチンコの仕組みがどんどん複雑になってきた
- ・画面がチカチカする
- ・台の音がうるさくなってきた

そこで現代のパチンコを映像で伯父に見せてみました。その感想はもちろん「これをお店で打てるわけが無い」とバッサリ言い切りました。もちろん 1990 年半ばに引退している人が 2010 年の台の映像を見て打てる気にならないのも無理ありません。しかし新規のユーザーを獲得するには、この複雑な仕組みをいかにわかりやすく伝えるかに鍵があると思います。

ちなみに伯父と同じ思いをしている点が私にもあります。それはスロットに全く触れられないということであり、パチンコでは専門用語で突然確変や潜伏確変、突然時短などは理解できても、スロットだけは何をどうすればよいのか正直分からないままで、いまだに手が出ない環境にあります。しかしスロットにはアニメコンテンツとのタイア

ップ機種やオリジナルコンテンツを利用した機種が多数あり、一度は遊んでみたいという思いが募る一方であります。

そこで中立的な立場の組織が、初心者やまだパチンコ・スロットを打ったことが無い人向けの展示会・講習会のような催しを随時開催すればよいと思いました。そこで調べた結果、社団法人日本遊技関連事業協会が2011年に主催した『パチンコ・パチスロフェスタ 2011』というものがありました。ここでは試遊台を設置したりして、初心者やパチンコをしばらく止めている人の来場を見込み開催した催しです。しかし、このイベントはエッセイを執筆する際に初めて見つけたイベントであり、開催の告示など普通の方は目に入らないイベントであると思います。

そこでスロットに興味があってもお店では何をどうしてよいか分からないような私でも、PCSAのような業界団体が主催する独自のイベントに参加して、打ち方の基本的なルールを学べる催しを定期的に関することを提言します。やはり利害関係を考慮した際、お店が単独で開催するよりも中立的な立場である業界団体が中心にイベントを開催すれば新規ユーザーの獲得にもつながり、業界全体の利益になります。

## ◇まとめ

以上のように3点を軸にエッセイとして提言させていただきましたが、ここではそれぞれのポイントをまとめたいと思います。

:音の問題:

- ・耳栓をしないと遊技ができないレベルの音が発生している点、及び混雑時は労働関連の法律で従業員への耳栓による保護などが求められるレベルの実質的な騒音が発生している点

⇒解決策として、お店・台メーカー・業界団体・規制組織の横断的な協議が必要

:タバコの問題:

- ・社会的にタバコ嗜好者が統計上大幅に減っている中、パチンコ店の顧客は喫煙者の割合は多い。しかし新規ユーザーはタバコ喫煙率が低いため、またタバコを好まざるとも喫煙ホールで我慢して遊技している非喫煙者も多数いると思われる。さらにこれからはタバコ関連の規制法律が次々に出てくるため、完全分煙ホールを推進。エアーカーテンや防煙板の設置の分煙策は副流煙対策としては無意味

⇒解決策として、ダイナムが展開する信頼の森シリーズを禁煙フロアが不足している都市部へ展開

:複雑な仕組みと演出の問題:

- ・台が進化し過ぎて壮年層がついていけなくなったり、若年者でも私のようにスロット

には全く触れられないという事態があり、最低限のルールを学べる環境が無い。あったとしても極小規模で実質的に意味を持っていない。

⇒解決策として、業界団体が主催する形で、定期的にパチンコ・スロットの初心者や全く遊んだことの無い人を対象とした講習会を開催。店舗が独自で行なわないため中立的な立場で開催できるのが強み

## ◇おわりに

元々私の大学院でのメインテーマである、企業統治とコーポレートファイナンス<sup>4</sup>で用いる実証分析の要領を使い、パチンコ店がミクロの地域経済・マクロの日本全体の経済に与える影響を個人で研究しようと思いました。なぜならパチンコ台という物に関わる業種がとてつもなく多いからであります。簡単に例を挙げると、

- ・地域金融機関 ・部品会社 ・パチンコ台製造会社 ・サービス業関連会社
- ・不動産会社及び内装会社

などがあがります。そしてリーマンショッククラスの経済危機は別であります。衰退しているパチンコ店業界といえど、常にこの複数の業種に資金が循環していることを考えれば、日本にかかせない業界であることがわかります。さらに面白いのが日本を代表する企業との繋がりです。情報の非対称性ゆえに、台に使われている部品メーカーなどはあまり表に出てきませんが、私が趣味で何台か購入した中古のパチンコ台に使用されているスピーカーなどは、東証1部上場のメーカーが作った製品が搭載されていました。

このように定期的に循環している経済サイクルの中に、日本の名の知れた企業が色々なところに食い込んでいるのが見てとれました。そこでもし、パチンコ店が日本全土で営業を停止した場合、日本経済にどれだけの影響が出るかということは、実証分析をする前から想像を絶する結果になることが予想されます。

ちなみにこのエッセイは2012年2月27日に書き終えましたが、この日に衝撃的なニュースが伝わりました。日立・三菱電機・NECが母体の日本唯一のDRAMメーカーであるエルピーダメモリが会社更生法を申請、破綻しました。負債総額では戦後製造業で最大でありました。このDRAM業界は韓国勢が市場を圧巻し日本勢が価格競争に苦戦していたという要因もありますが、ここにまた一つ輸出産業がとてつもなく弱っている一面を見ました。

そこで、パチンコ業界の立ち位置を再度確認してみます。現在のデフレ下ですべてが萎縮していく日本経済に、一定の需要を常に欲し続けるパチンコ業界は、貿易赤字が常態化し始める中、内需産業をさらに拡大していく必要性に、同業界はまさに合致した第三次産業であると思います。さらに都心部ならともかく日本の地方では人口減が著しく、

---

<sup>4</sup> コーポレートファイナンス・・・経営財務論とも言う。企業が資金調達をする際、株式発行か借入金のどちらがよいのかを、色々な利害関係者や投資の理論を考慮して決定する実学的な学問。

第三次産業は数えるほどしかない中、一定の若年者の雇用の場を常に提供し続ける立場であります。

このようにパチンコ業界を前評判で判断するのではなく、アカデミックに見てみると面白い業種であり、この業種をさらに広く見渡すと日本の名だたる企業に行き着くこともわかってきました。

今回は実質的には産業構造として欠かせないパチンコ業界が、どのようにしたら人が戻るか、また新規参入を促進させるかをパチンコで遊んでいるユーザーという側面からエッセイを書かせていただきました。あくまでエッセイということで主観的な話で進めてまいりましたが、これらの提言が貴協会会員店舗の繁栄と、業界の活力の一助となるアイデアが提示できたとしたならば、これほどの喜びはありません。

以上

#### 参考文献

- ・パチンコの経済学 佐藤仁(2007)
- ・続・パチンコの経済学 佐藤仁(2010)
- ・パチンコ屋に学ぶ経済学 伊達直太(2007)
- ・パチンコがなくなる日 POKKA 吉田著(2011)
- ・パチンコで生きていく技術 ヒロシ・ヤング著(2011)

#### PCSA 学生懸賞アイデアエッセイより

- ・パチンコの面白さってなんだろう 井上春香 (2007)
- ・パチンコ業界の抱える問題と業界改革に向けた新たな取り組み 富澤岳人 (2009)
- ・これからの日本社会に順応したパチンコ業界の展開 小高大喜 (2011)

#### 参考サイト

※文中でのデータの引用元のサイト等は脚注にて開示

- ・一般社団法人 パチンコ・チェーンストア協会 <http://www.pcsa.jp/index.htm>
- ・ピーワールド <http://www.p-world.co.jp/index.html>